

2017年4月5日

ベンチャー企業との事業共創プログラム
対象となる事業領域を拡大し、第3期「東急アクセラレートプログラム」を実施

東京急行電鉄株式会社

当社は、4月18日(火)から、法人設立からおおよそ5年以内のベンチャー企業を対象とした事業共創プログラムである第3期「東急アクセラレートプログラム」(以下、本プログラム)を実施します。本プログラムは、東急線沿線の生活利便性を高める新たなサービスを創出することと、渋谷を中心としたベンチャー企業の持続的な成長を支えるエコシステムを構築し、渋谷をグローバルなイノベーション拠点にすることを目的に実施するものです。

本プログラムは、東急線沿線に集積する東急グループのさまざまな経営資源を活用し、生活に密着したリアルな顧客接点の中でモデル地域を作りながらエリア展開の支援を行うことが特徴です。また、東急グループの複数のリソースを組み合わせることで、他のプログラムでは困難なベンチャー企業のサービスやプロダクトの用途開発支援が可能です。

2015年からスタートした本プログラムは、2年間で延べ212社の応募があり、受賞企業など7社と11件のテストマーケティングを実施し、3件の業務提携および出資を完了しています。

第3期となる今回は、対象となる事業領域を拡大し、「交通」、「不動産」、「生活サービス」、「IoT・スマートホーム」、「広告・プロモーション」、「インバウンド・トラベル」の6領域に加えて「エンターテック・次世代エンタテイメント」、「スポーツテック・次世代スポーツ」、「ヘルステック・ヘルスケア」、「デジタル・マーケティング」の4領域を新たに設定します。また、各事業領域のノウハウを豊富に有する東急グループ2社を新たに事務局に加え、東急グループ事業者で受賞企業のサポートを実施していきます。

2017年4月からサービスやプロダクトの募集を行い、審査会を経て、11月からテストマーケティングを開始します。10月に予定している最終審査会を通過した企業には、一定の条件の下、東急線沿線のグループ媒体や施設、顧客基盤、営業網などを利用した高効率なテストマーケティングを行い、当社との業務提携なども検討します。また、受賞企業以外の企業も、東急グループ各社との提携や東急グループが関与するさまざまなイベントへの参加、大企業ネットワークへの紹介などの機会提供を検討します。

なお、プログラムの運営は従来同様、当社と Spiral Ventures Pte. Ltd.(旧 IMJ Investment Partners Pte. Ltd.)で行います。

第3期「東急アクセラレートプログラム」の詳細は別紙の通りです。

以 上

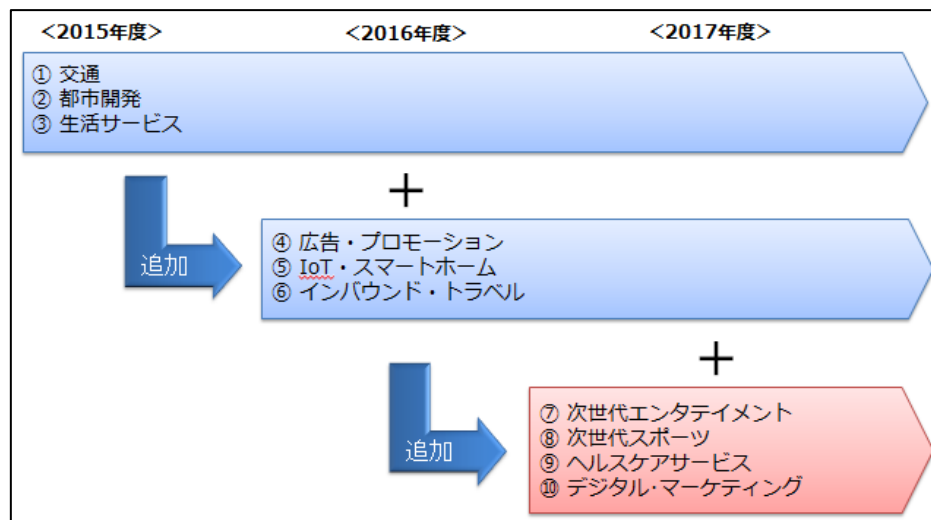
【別紙】

第3期「東急アクセラレートプログラム」の詳細

1. 概要

法人設立からおおよそ5年以内のベンチャー企業を対象としたビジネスコンテストを開催し、「交通」、「不動産」、「生活サービス」、「IoT・スマートホーム」、「広告・プロモーション」、「インバウンド・トラベル」、「エンターテック・次世代エンタテインメント」、「スポーツテック・次世代スポーツ」、「ヘルステック・ヘルスケア」、「デジタル・マーケティング」の10事業領域を中心に、東急線沿線の生活利便性を高めるサービスやプロダクトを募集します。

審査を通過した企業は、東急線沿線に集積する東急グループの広告媒体や施設、顧客基盤、営業網、株式会社東急総合研究所の各種調査データなどを利用したテストマーケティングを行えるほか、当社との業務提携なども検討します。



対象事業領域の変遷

2. スケジュール(予定)

2017年4月18日	ビジネスプランの応募開始
2017年6月	書類選考
2017年7月～8月	一次プレゼンテーション
2017年10月	最終プレゼンテーション
2017年11月以降	テストマーケティング・業務提携等の検討

3. 副賞

東急賞	1,090,000円
渋谷賞	428,000円
二子玉川賞	250,000円
New Work 賞	当社のサテライトシェアオフィス「New Work」1年間使用権利を付与

4. URL

<http://www.tokyu-ap.com>

5. 実施イベント

2017年4月18日(火)15時30分から、渋谷ヒカリエ8階「COURT」にてプログラム説明会および名刺交換会を開催します。なお、参加申し込みはパソコンやスマートフォンなどからお申し込みいただけるペーパーレスサービス「Peatix」で受け付けていますので、本プログラムのホームページよりお申し込みください。今後、上記説明会の他に運営事務局と直接ディスカッションをする場も設ける予定です。



2016年度説明会および最終審査会の様子

6. これまでの受賞企業および業務提携・株式引受企業

(1) 受賞企業

■ 第1期受賞企業(2015年度)

① 東急賞

株式会社 ABEJA (<https://www.abeja.asia/>)

人工知能のテクノロジー(ディープラーニング)を活用したデータ解析プラットフォームの提供、他

② 渋谷賞

株式会社アクアビットスパイラルズ (<http://spirals.co.jp/en/>)

モノや場所とオンラインを手軽につなぐIoTプラットフォーム「Smart Plate」の提供など、スマートフォンアプリ・サービスの開発、他

③ 二子玉川賞

サステナブルエネルギー開発株式会社 (<http://sustainable-energy.co.jp>)

有機系廃棄物のメタン発酵で発電させるクリーンエネルギーの供給事業、他

■ 第2期受賞企業(2016年度)

① 東急賞

株式会社 Huber. (<http://huber.co.jp/>)

国際交流を望む日本人ガイドと外国人観光客を結ぶC to C マッチングサイトの運営、他

② 渋谷賞

株式会社ステイト・オブ・マインド (<http://state-of-mind.co.jp>)

オリジナルアイテムを1点から作れるオンライン縫製マッチングサービスの運営、他

③ 二子玉川賞

株式会社 Nextremer(<http://www.nextremer.com/>)

人工知能テクノロジー(対話エンジン)の研究開発、同テクノロジーを活用したオープンイノベーションへの取り組み、他

④ New Work 賞

A) 株式会社バカン(<http://www.vacancorp.com/>)

人感センサーを用いて空間の満空状況を知ることが出来るサービスの提供

B) 株式会社16lab(<https://16lab.net/>)

3Dキャプチャーの技術を用いたリング型ウェアラブルデバイスの開発

(2) 業務提携および株式引受企業

① リノベる株式会社

東急線沿線の住宅市場活性化を目的として、2016年3月に一棟リノベーションマンション事業における業務提携および出資に関する基本合意を締結。東急線沿線の住宅市場の活性化と、スマートハウスを活用した先進的な取り組みに挑戦している。

② 株式会社 IROYA

東急グループのリテール事業のオムニチャネル化実現を目的として、2016年7月に業務提携、10月に出資に関する基本合意を締結。ECと店舗のリアルタイム在庫連携等を行い、アプリを中心とした販売物流一气通貫サービスの提供に取り組む。

③ Tangerine 株式会社

IoTを活用したエリア媒体の開発と販売を目的として、2016年10月に株式会社東急エージェンシーによる出資に関する基本合意を締結。BLE ビーコンプラットフォームを構築する Tangerine の技術を用いて動く生活者を捉え、リアルタイムで次の動きへと導く計画を立て、実行、検証、さらに最適化するための仕組み、仕掛けづくりに取り組む。

7. 共同事業者 Spiral Ventures Pte. Ltd. (旧 IMJ Investment Partners Pte. Ltd.)

代表者 : 堀口 雄二

所在地 : 112 Robinson Road #07-03/04 Singapore 068902(本社)

設立 : 2012年1月

URL : <http://www.imj-ip.com/>

事業内容 : シンガポール・インドネシア・日本に拠点をもち、東南アジア・日本の IT 関連ベンチャーへ投資を行うベンチャーキャピタル。

以 上

(参考)

「東急アクセラレートプログラム」受賞企業の主なテストマーケティング実績

■2015年(第1期)

株式会社アクアビツスパイラルズ

- (1) 2015年12月22日(火)～2016年1月10日(日)、渋谷文化プロジェクト10周年記念キャンペーンと連携し、同社が保有する技術でスマートフォンをかざすだけでさまざまな情報を配信するIoTデバイス技術「スマートプレート」(※)を活用し、渋谷の街に関する情報を発信するテストマーケティングを実施。同期間内に渋谷駅構内や周辺の工事現場の仮囲いなど5カ所に渋谷区観光大使／ミュージシャン小宮山雄飛氏や金王八幡宮のウィルチコ権禰宜(ごんねぎ)など、渋谷に縁のある方が登場した5種類のポスターを掲出し、ポスターに設置された「スマートプレート」にスマートフォンをかざした方に、渋谷の歴史やおもしろスポットなど、渋谷の街に関する情報を配信した。

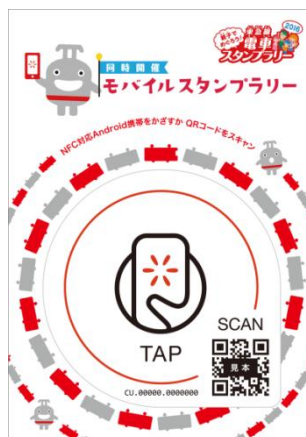


※場所やモノに貼ってアプリからセットアップするだけで、さまざまなオンライン情報やサービスと直接つながります。バッテリーを使用しないためメンテナンスが不要、利用者は専用アプリケーションをインストールせずに情報を入手することができますといった特徴を持つ。

- (2) 2016年7月16日(土)～8月31日(水)、「親子でめぐろう! 東急線電車スタンプラリー2016」の実施に際して、「スマートプレート」を活用し、従来の紙のスタンプ帳を用いたオリジナルスタンプラリーに加え、スマートフォンを使ったモバイルスタンプラリーを同時に実施。スマートフォンをかざすだけで「東急線キャラクターのるん」のスタンプがモバイルスタンプ帳に記録され、沿線の懐かしいアーカイブ画像を取得できるほか、スタンプ数に応じて株式会社東急グルメフロント運営店舗で利用できる飲食特典クーポンを配信した。



▲モバイルスタンプ帳



▲モバイルスタンプラリースマートプレート

- (3) 2016年12月19日(月)～2017年3月31日(金)、東急ストア中目黒本店において「みんなのきょうの料理」レシピを配信するスマートプレートを店内の各商品売り場に設置。気になる商品の前でNFC対応機器をかざすと、食材やテーマに沿ったおすすめレシピ情報を即座に取得し、献立づくりのお手伝いをした。



■2016年(第2期)

株式会社 Huber.

2017年2月5日(日)～3月6日(月)、渋谷を中心とする東急線沿線において、新たな観光資源開拓を目的として「TOMODACHI GUIDE」を活用した外国人観光客動向調査を実施した。

「TOMODACHI GUIDE」は、日本人ガイドと外国人観光客を繋ぎ、両者が友達のような感覚で旅を楽しむガイドマッチングサイトで、日本人ガイドはWEBサイトに「お勧めしたい場所」や「地元の文化に触れる体験」などツアーを登録し、外国人観光客は、訪日前にその内容やレビューを参考にガイドを指名することで、ツアーを申し込める仕組みとなっている。

同調査では、同WEBサイト上に、東急線沿線の隠れた名所や体験を味わえるツアーページを掲載し、ツアー実施後に日本人ガイドに外国人観光客の興味のポイントをヒアリングすることで、東急線沿線の潜在的な観光資源の開拓を行った。



以 上